進捗状況の概要（１ページ以内）
今年度は今後の事業運営を円滑に進めるため、インテンシブ教育プログラム運営委員会と同マネジメント委員会の設置、学修成果の可視化・分析システムの開発、FD 懇談会・セミナー・海外大学事例調査による各種情報収集・整理等により、本事業推進のための各種基盤整備を実施した。 **１．実施体制の整備と全学波及** インテンシブ教育プログラム運営委員会と同マネジメント委員会を設置し、事業の検討母体と大学全体との連携体制を整えた。また、「学びのエコシステム」を支える学生メンター制度を構築し、環境整備したアクティブラーニングスペースでの新入生支援およびオンラインツールを通じた学生支援を行った。 また、両委員会の連携による PDCA サイクルの実施、全学の教学会議である教務担当教務主任会や教育方法研究開発委員会での事業紹介や各種セミナー・シンポジウムの開催により本事業の方向性を全学へ示した。 **２．カリキュラム整備** 本学部では 2024 年度からの新カリキュラム導入を目指して、議論を継続している。並行して、インテンシブ教育プログラム運営委員会で学際モデルコースのトライアル：「社会デザイン・インテンシブコース（仮）」を先行導入することを決定し、2023 年度からの実施を目指すこととなった。大規模な科目精選・統合は 2024 年度からの全体のカリキュラム改革の中での検討課題とした一方で、外国語科目の再編成案を先行決定した。 **３．学修成果の可視化・分析システムの構築** 本事業の効果測定の基盤となる学修成果の可視化・分析システムを開発した。試行導入した学際教育ルーブリックと教学 IR データとの連関を可視化、分析するシステムを構築し、テストデータによる分析を開始した。開発過程において学際教育ルーブリックのデータ分析が必須となったため、当初想定よりも早く同ルーブリックの試行版を開発し、教員・学生それぞれの評価を実行した。並行して実施した海外大学事例調査やセミナー・シンポジウム等で得た知見を踏まえて、次年度にルーブリックや分析システムを改良することとしている。 **４．周辺概念の収集・整理** 実施した各種の情報交換会、懇談会、セミナーでは学際教育やインテンシブ教育における学修成果の可視化という課題を整理することができ、特に専門教育と学際教育との組み合わせ・教育手法の課題を再認識した。これらの課題をふまえて、カリキュラムへの組み込み方を協議し、「社会デザインコース」構想へとつなげた。また、「学際教育」に関する海外の最新事例調査ならびにそのアセスメントに関する調査および関連研究論文の収集を行った。